草濫

熊本高校

図書委員会広報

2008.7.18

No.281

図書紹介

直筆で読む「坊ちゃん」　夏目漱石

明治以降に書かれた日本の小説のうちで、漱石の『坊っちゃん』はもっともよく読まれたものの一つということになっている。ところで生の原稿を写真版で読むのは、活字で読むのとどこがどんなふうに異なる営みとなるのだろうか。現在では仮名遣いや漢字の字体が昔の用法や表記と異なるから、雑誌や単行本における昔との違いがある考えられるが、今でも、古文書などを読むリテラシーを持つ人には読みやすいのだと思う。漱石の書字は、きちんとした「法則」に則っており、しかも「印刷を前提とした画然とした書き方」で原稿用紙に律儀に書き込まれているからだ。しかしそれらを持たない人たちにとっては多少読みにくいものであるかもしれないが、それが故に自分では到底理解し得ない『坊っちゃん』を書いた当時の夏目漱石を新鮮な目で見つめることが出来るかも知れない。

毎日が冒険　高橋歩

夢は逃げない。逃げるのはいつも自分だ！

自分の好きなことをきわめたい。その想いだけを胸に、未経験、金なし、コネなしで「自分の店」を開き、「自分の本」を出版し、果ては「自分の会社」まで創った冒険野郎のドタバタ自叙伝。守ってきたことはただひとつ、「とりあえずやっちまう」ってことだ。

（本文より抜粋）

本場テキサスでのカウボーイ修行に始まり、夜の街でのギター弾き語り、潜在能力開発合宿での涙のシャウト、命がけの手作りバンジージャンプ大会&雪山遭難ツアー、神秘のドルフィンスウィム、聖者サイババと語ったインド旅行などなど、次から次へと大事件が巻き起こるジェットコースターのようなスピード感あふれる展開。25 歳の自由人が語る爆笑サクセス・ストーリー。

夏休みのこの機会にこの本で自分のいままでを振り返り、自分を見つめなおしてみてはいかがでしょうか。

ニライカナイ　神の住む楽園　三好和義

14 歳でその地を訪れて以来、憧れ、撮り続けた沖縄。宮古のエメラルドグリーンの海、西表の神秘の森、石垣の秘密のビーチ…。豊穣をもたらす神が住む楽園・ニライカナイの伝説が、写真家・三好和義の想いとともに蘇る。

国内外の「楽園」を撮り続ける写真家・三好和義氏が、中学生のころから憧れ、通い詰め、撮り続けてきた沖縄。本書は、その三好氏撮り下ろしによる、首里城をはじめとした世界遺産の数々、本島や、宮古島・西表島など離島も含めた美しい自然、慶良間の水中写真、与那国の海底遺跡など…、さまざまな沖縄の風景をメインに、氏が中学から高校にかけて撮ったモノクロ作品もまじえて、沖縄の歴史や文化、魅力を余すことなくこの一冊に込められています。

日々たまった疲れをいやすためにも是非本を手に取ってみてください。

裏面　夏休み期間中の図書館開日